

ノース・ダコタ州：小麦作柄と気象状況

2002年10月1日

2002年9月29日現在

9月29日迄の1週間の気温は平年を下回り、最低気温20度台を記録し、多くの地区で霜が見られた。日中の最高気温は59～78度と地区により差が大きい。降水は中央部では0.22～0.33インチの集積雨量であったが、他の地域では0.10インチ未満であった。

デュラム小麦の収穫は89%で完了（昨年：96%、平年：92%）した。

この週の平均農作業可能数は5.9日であった。

土壌水分：

Topsoil

	Very short	Short	Adequate	Surplus
This week (%)	18	32	44	6
Last week (%)	16	31	46	7
Last year (%)	9	37	53	1
5-yr. Ave. (%)	10	29	57	4

Subsoil

	Very short	Short	Adequate	Surplus
This week (%)	19	29	47	5
Last week (%)	18	29	48	5
Last year (%)	7	30	62	1
5-yr. Ave. (%)	9	27	60	4

小麦生育状況：

	This week	Last week	Last year	5-yr. Ave.
Durum wheat Combined (%)	89	83	96	92

Source: North Dakota Agricultural Statistics Service

州東北地区で収穫された硬質春小麦の品質は、昨年と比較し多少蛋白質は低く、容積重は高い傾向にある。灰分は昨年より低い結果が出ている。北西地区の硬質春小麦の品質は、昨年に容積重並びに蛋白質が低くなっている。蛋白質 (as is moisture) は平均14.44% (昨年：15.52%)、容積重は58.86lb/bu (昨年：59.44) との報告がある。又、Falling Number の平均値は337であり、昨年の407秒より少ない結果と成っている。登熟期に入ってからからの降雨が低蛋白、低FN値、低容積重の原因と思われる。